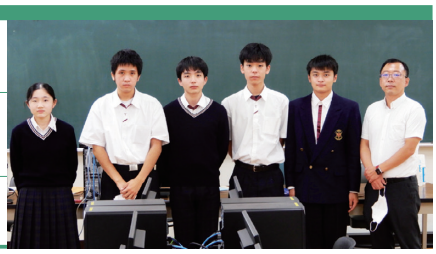
女性委員長特別賞

別府をつなぐ移動式地区センター

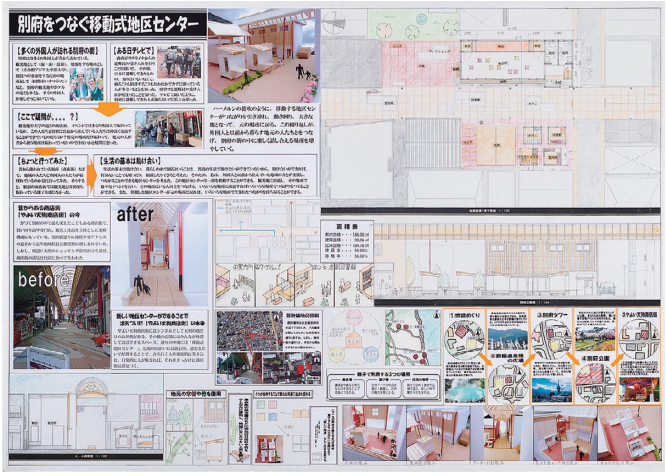


大分県 | 大分県立鶴崎工業高等学校　選手…3年生2名

日本有数の観光地である別府市では、観光地には外国人観光客も多く訪れて賑わいがある反面、地元商店街の活気が失われているのが問題点であった。観光地の賑わいと地域商店街を繋ぐために考えたのが屋台形式の移動式地区センターだ。

屋台は、案内所、ワークショップ、コーヒー店、図書館の4つを基本とし、それぞれの組み合わせは自由。別府市内の観光地域に出張したり、基地となるやよい商店街に戻ってきたりと、その時々で活用方法が変わる。そして、屋台には、地元の日田杉や竹を利用し、大分県らしさもきちんと取り入れている。

従来の地区センターとは異なり、場所を固定せず、また、気軽に移動できるサイズ感も良い。将来的に同じユニットをいくつか増やしてもよいし、その時々のニーズに合わせて新しい屋台をつくっていくこともできる。屋台位置情報を発信して、屋台を目指して人々が集まってくるようになれば、地元商店街にも活気が戻ってくるのではないか。いろいろと想像を膨らませて次の展開を考えられるところがとても良かった。（本間）



入賞

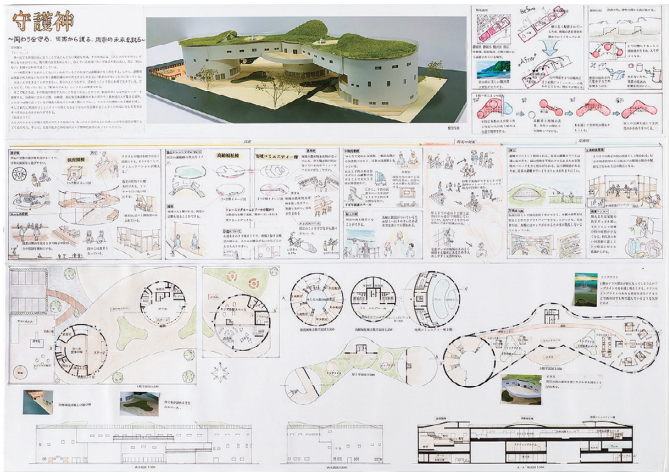
守護神　～関わりを守る、災害から護る、用宗の未来をまもる～

静岡県 | 静岡県立科学技術高等学校　選手…3年生5名

「これからの地区センター」をテーマとして、保育園、福祉施設、公園それぞれの用途が地区センターと共存し融合できる計画を提案されている。各用途をどのようにつながりを持たせながら利用できるかたちとするかと考えた中、それぞれ独立もでき、共通するエリアからコミュニケーションする考え方が良い。

プレゼンの日常・防災の効果・災害時、それぞれ使い方考え方を工夫しているのが伝わる。模型作成中、形状の美しさも求め、災害時の様子も頭に浮かべ利用者の動線を考えながらつくった結果が良い方向に働いている。保育園棟の使い方も深い考えをもって、説明があり納得できることが多い。高齢者棟と地域コミュニティ棟の使用方法もしっかりとした考えでまとまっている。防災の効果として日常からセンターを利用することでコミュニケーションが生まれ、災害時に人々の協力が円滑に進むことも良いアイデアと思う。

駿河湾の景色がひろがる敷地設定であるので、津波対策をもう少しアピールしたかったようにも思う。また、建物内での人々のコミュニケーションだけでなく、グランドラインでの交流もできたらもっと良い提案になると思う。敷地の使い方、各棟のつくり方、繋がり方をよくまとめ、利用のことも考えたプランはよくできている。ベスト11おめでとう。（竹江）



入賞

繋がりのその先へ

和歌山県 | 和歌山県立和歌山工業高等学校　選手…3年生9名

過疎化が進む商店街に於いて、シンボル的に現存する築140年の建物をリノベーションした計画である。高齢者への配慮や、ヒアリングにもあった周辺商店のフードロス。SDGsの考え方のもと、「おじおば食堂」は地域の課題解決として、優しさ溢れる提案である。

疑問に思ったのは、通りには空き家が多くありながら、空き家活用ではなく、現在も本屋として機能している建物をなぜセンターにしようと思ったのか――。一極集中型とすることで商店街に対してどう位置付けられるのか、プレゼンからは、通りや周辺の環境について読み取れない。

敷地内に変則的なL字として奥に伸びる既存建物の空きに、中庭を設けるように子どもスペースを増築?しているが、中庭を介して繋がりをもたらしたい所にトイレを計画し、建物の関係性を塞ぎ込んでしまったのは残念である。L字を変則させているトイレの部分は減築をし、建物をよりシンプルな外形にすることで可能性を見出せたかもしれない。子どもスペースに関しても、小窓はありつつも基本的に壁の存在が大きく、子どもと高齢者の交流にバリケードが設けられているかのようである。高齢者にとって、子どもたちとの会話は生きる活力でもある。「交流」を生み出すことに建築の力も必要である。（山本）

入賞

寄りどころ『verde』

岡山県 | 岡山県立岡山工業高等学校　選手…3年生9名

岡山市中心地の奉還町商店街では、すでに一般社団法人SGSGを設立して、地元の学生有志が、商店街の発展に向けたいくつかの活動を行っている。また、この商店街には空き店舗も多く、将来的にはそれらを使ったさまざまなサービスを展開していきたいと考えている。今後必要となっていくサービスとしては訪問介護ステーションや託児サービス、子どもから大人までの学習センターなどがある。

今回は、現在の活動の拠点となる場所づくりと、これからもっと商店街を活性化させていくための起点となる場所としての地区センターを企画した。既存店舗を増築しての提案として、シンプルなスペースをさまざまに活用していく提案がなされている。特に、若者世代、大人世代を曜日や時間軸で分けて活用を提案しているところが良い。使用方法を固定するのではなく、その時々のニーズに合った活用ができそうだ。ここを拠点に商店街全体をどのように変えていくかなどの企画会議ができると良いだろう。

ひとつ気になったのは、商店街の地図と計画平面図の向きを合わせたほうがもっと解りやすかったと思う。（本間）

入賞

未来地図 ～地元のドラマを魅せる～

徳島県 | 徳島県立徳島科学技術高等学校　選手…3年生3名

どこの地方自治体もが抱える「人口減少」「過疎化」「空き家問題」「農業の後継者不足」に真っ向から向き合い、行政、地域住民、企業、大学・教育機関が連携・協働することを前提にして、地域のつながりを広げる施設、地域の魅力を体験する施設、農業特区を目指した仕組みを支える施設、国内外からの人々を受け入れる施設の4つを計画している。考えうる問題をすべて引き受けようとした壮大な計画にして力作で、計画するにあたって、丹念に地元に即して調査を行ったのだと思う。コウノトリを保全や、協働してくれる企業や大学、大麻町の歴史・文化、とくに歴史的建造物や伝統工芸である・大谷焼などについて理解を深めた上での計画である。

建築の意匠については、いくつかの形態の寄せ集めの感があり、構造についても不明な部分はあるにはあるが、図面の表現は、色分けを利用しながらコンセプトと建築の内容との関係を示すなど、論理的でわかりやすく、必要図面は完備していて誠実である。

難しい問題に対して正面から逃げずに対応し、建築の側からできることを精いっぱいやったのではないか、そのことが何より尊いと思う。

（伊東）